2024
おおいた地域連携プラットフォーム
フィールドワーク支援事業

大入島石間地区高齢者サロンのメンバーと

ワクワク
元気に！

佐伯市大入島
イノベーションプロジェクト

～地域活性化のアイデア創出とその実践に向けて～

大入島：面積が 5.65 ㎢ 人口 500 人超漁業や水産加工が盛んで、ヤマモモも有名

【1】きっかけ

大学院生で「大入島寺子屋いのちしまゆらい」の代表でもある小寺香里コーディネーターからのお話し。

島の人口が年々減少し、
高齢者主体の静かな地域となってきた

海の幸や山の幸多く、
加工品づくり盛ん
祭りなどの伝統行事も

オルレなどを取り
入れ、島に人が来て
くれるようになった

人が足りない！
若い人の力を借りたい！

【2】私たちは考えました！（仮説）

（1）高齢者たちに元気になってもらいたい
そのためには ↓

やりがいづくり（仕事や事業、活動する場の創出）

（2）豊富な地域資源がもっと活かされてほしい
そのためには ↓

紹介・見せ方の工夫、「稼ぎ」に転換するシステム

（3）祭りなどに若い人たちが参加してほしい
そのためには ↓

島内外の円滑なコミュニティの創出

【3】方法

社会イノベーション学科で学んだ手法（情報収集し、考え、アイデアを出し合い、試行、声を集め、アイデアを見直す、さらにブラッシュアップ）をもとに、実践に向けての準備をしました。

★事前の準備・お披露目★

挨拶状ポスター・チラシを島内に配布
コミュニティセンターまつりへの参加

★挨拶・趣旨説明★

★情報収集、意見交換★

★アイデア出し★

【4】活動報告

アイデア出しを繰り返していくなかで、私たちは、次の 3 つのアイデアを、まずは試行しました。試行後は、成果と課題について意見を出し合いました。

試行①元気モリモリお届けし隊！

孫がおじいちゃん・おばあちゃんに会いに行くように、自然な訪問をする。お話しを聞いたり、一緒に食事をつくったり、食べたり・・・。12 月にその機会ができました。公民館での集まりの時に訪問、クイズをしたり、体操をしたり、食事をしたり・・・島内もまわりました。与福丸の清家専務に講義をしていただき、名所巡りも行いました。佐伯市役所に訪問、田中市長からお話しを伺いました。

成果
- 家族のように接していただいた
- 元気出たよ、また来てねと笑顔でおっしゃった
- 世代を超えた交流は学ぶことがたくさん

課題
- 単発ではなく、持続性のある活動ができるか
- 交通手段などすぐに取りかかれない

試行②ダイバでカテテ訪問！

外国人にも声がけし、大入島に渡ってもらう計画を立てました。交流人口を増やすこと、多様な人たちに大入島をみてもらうこと、イベントがあれば、それに参加し、現地の食を楽しみ、島民の方々とふれあうこと、そして、最寄り拠点から大入島に行くまでのコースを楽しむことを目的としました。ちょうど、1 月に大きな伝統的イベントである「大入島トンド火まつり」に向けて、準備し、実行しました。

成果
- 異文化交流ができた
- 祭りが賑わった
- 出店の売り上げなどに貢献した

課題
- 参加者募集やアテンドなど準備に時間がかかる
- 持続的に運営できるか不安

試行③なりわい・催し観察塾

島のことは島の人にきくのがいちばん、なりわいや産業、ものづくりやイベントづくりなど、島を活性化させようとされている人たちに聞き取りしながら、様子をみながら、そして、キーパーソンの考え方や知恵を、あえて、盗むことで、また客観的に観察することで、アイデアの何かヒントになるものをみつけようとしました。ほおずきタワーをつくり、養殖ぶりの市場へのおくりこみ、マリンレモンの販売方法など、なりわいとしての側面にはたくさんの学びがありました。また、大入島に関するイベントとして、さいき★童話フェスティバルの様子を主催者より聞き取り、苦労ややりがいとともに、地域資源をいかにアピールするかについても聞くことができました。

成果
- 大入島ならではの資源やその活用
- 子どもから高齢者まで多様なコミュニティが構築
- 携わる人のモチベーションが向上

課題
- キーパーソンの存在をずっと維持できるか不明
- 地域資源に付加価値をつける手法が難しい
- 様々な価値観をどうまとめていくか

【5】今後の展開

共通の課題は、持続性や継続性の問題、移動手段の確保、なりわいやイベントのさらなる効果の出し方
それらの解決のため、コンテンツ（内容）の充実、ネットワークづくり、手軽なモビリティの導入など、できるところから始める

大分大学経済学部・大学院経済学研究科 渡邊ゼミ

2024 年度